

インフラメンテナンス国民会議 革新的技術フォーラム

～道路舗装診断の自治体現場における実践事例セミナー～

国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 技術企画係長 いで 井出 しんすけ 晋輔

1 はじめに

わが国の社会資本ストックは高度経済成長期に集中的に整備され、平成 35 年には道路橋や河川管理施設の約 4 割、トンネル、港湾岸壁の約 3 割が建設後 50 年以上経過するなど、今後急速に老朽化することが懸念されており、インフラの大部分を管理している自治体を中心に、適切なインフラメンテナンスを実現することが大きな課題となっている。

このような背景を踏まえ、国土交通省では、平成 25 年を「メンテナンス元年」とし、平成 26 年 5 月に戦略的な維持管理に関する基本的な考え方や、国土交通省が取り組むべき施策をとりまとめた「インフラ長寿命化計画（行動計画）」を策定し、インフラの老朽化対策に取り組んでいる。

この計画を着実に実施するためには、インフラメンテナンスに係るコストの縮減・平準化を図るなどして戦略的なメンテナンスに取り組んでいく必要がある。この取組みを加速化させるため、産学官民が一体となって技術や知恵を総動員し、インフラのメンテナンスに社会全体で取り組むためのプラットフォームとして、平成 28 年 11 月にインフラメンテナンス国民会議が設立された。

本稿では、インフラメンテナンス国民会議の革新的技術フォーラムの取組みとして平成 29 年 5

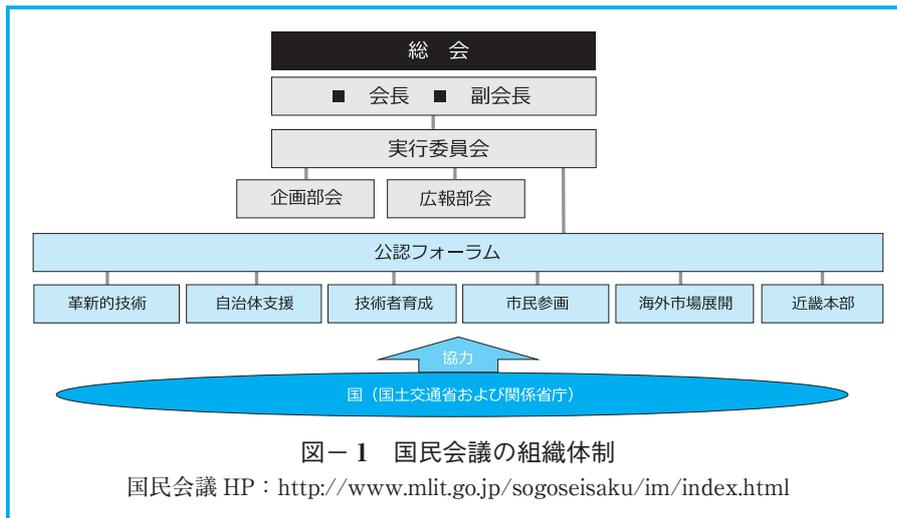
月に開催された「道路舗装診断の自治体現場における実践事例セミナー」について紹介する。

2 インフラメンテナンス国民会議

インフラメンテナンス国民会議（以下、「国民会議」という。）は、「革新的技術の発展と社会実装」や「企業等の連携の促進」、「自治体への支援」、「インフラメンテナンスの理念の普及」、「インフラメンテナンスへの市民参画の推進」を目的として、趣旨に賛同し活動に意欲のある企業、研究機関、施設管理者、市民団体等が連携するプラットフォームとして設立し、（株）経営共創基盤代表取締役 CEO の富山 和彦氏が会長に、政策研究大学院大学の家田 仁教授が副会長に就任した。設立時の会員数は 199 者であったが、平成 29 年 7 月 11 日現在、3 倍超の 617 者にまで会員数が増加している。国民会議は関係省庁の協力のもと国土交通省が事務局を務めているが、産学官民の会員による主体的な運営により活動が行われている。

国民会議の組織体制は図-1 のとおりで、今回紹介する革新的技術フォーラムは、革新的技術の発掘と社会実装や、そのための企業等の連携を促進するため、

- ・具体的な施設管理者のニーズや技術の課題を明確化し、解決のシーズ技術を持つ企業の参入を促進



- ・ 技術開発成果の社会実装を目標とし、施設管理者とさまざまな業種の企業等がオープンイノベーションにより技術開発を促進
- ・ 技術開発にあたり企業マッチングや技術開発の実証フィールド等をコーディネートするためのフォーラムとして設立された。

3 道路舗装診断の自治体現場における実践事例セミナー

国民会議では、これまでインフラメンテナンスの課題として多くの会員自治体が挙げた「道路路面性状把握の効率化」を取り上げ、技術の掘り起こしや官民の意見交換、企業間の技術の融合、現場試行等を行い、その技術開発や社会実装の加速化を進めてきた。今後は、各自治体において、道路路面性状を効率的に把握する技術の現場での実用化状況や各技術の特徴を踏まえ、適切な技術を採用する必要がある。このため、「道路路面性状把握の効率化」技術を幅広く取り上げて、国および自治体の管理者の視点から技術特性や実施事例の紹介、技術比較等を行う「道路舗装診断の自治体現場における実践事例セミナー」を平成29年5月に開催した（写真-1）。

セミナー当日、約400名（本会場：約150名、サテライト会場：計約100名、ウェブセミナー：約150名）の参加のもと、国土交通省・自治体の取組み紹介、道路舗装技術紹介等が行われた。取組み紹介においては、国土交通省からこれからの

舗装マネジメントの考え方などの紹介を行い、自治体からは「全国1位の道路延長のメンテナンスサイクルを最新技術も使ってどのように回すか模索中（浜松市）」、「目視では分かりづらい異常への対応などが課題（品川区）」、「今後、限られた補修予算の中で新技

術の継続的な運用が可能かについて検討が必要（大分県）」等の問題提起などがなされた。その他、道路舗装技術紹介は図-2の4者から紹介がなされ、さらに、その他の関連技術も革新的技術フォーラムで集約して参加者に対して技術比較が可能な特性整理表（表-1）が配布された。これにより、自治体等が「道路路面性状把握の効率化」技術の導入を検討するにあたっての参考となることを期待したい。

本セミナーでは、本会場・サテライト会場でアンケートを実施し、回答者約200名のうち、満足度（大変満足もしくは満足（5段階評価の1もしくは2））が80%程度、同様のセミナー等が開催される場合の参加希望もまた80%程度であったことなどから、セミナーが有意義なものであると考えられる。一方で、発表者と聴講者の間で広く意見交換できるような雰囲気作りを希望する声もあり、このような意見は、次回のセミナーなどで運営面に反映していきたい。



写真-1 セミナー本会場の様子

